

寫眞週報

報情

第七百二第日七月七



週寫  
報眞

情 報 局 編 輯  
七 月 七 日 第 二 百 七 十 九 號



塹壕に絹夜具を持込み  
飯盒に刺身を盛り  
長袖をひらめかせて  
突撃ができようか

戦局は正に悽愴苛烈  
国内もまた戦場  
虚飾を抛つて決戦に  
一億總蹶起の時は今

野戦の心もて貫かん  
我等が衣、食、住

# 南方はいよいよ明るく遅しく

敵が何とわめかうと東亞でも歐  
洲でも樞軸陣營の必勝態勢は微動  
だもしない。北阿戦線やアツツ島  
は大きな戦局の小さな揺り返しに

過ぎなかつた。例へば東亞の現實、  
新しい建設を見よ。帝國の必勝  
不動の態勢が日に強化されればこ  
そ、敵の焦り方も必死になつて來  
てゐるのだ

殊に第八十二臨時議會で明らか  
にされた大東亞建設に對する帝國  
の所信、ビルマの獨立はいふまで  
もなく、今年中には比島も獨立さ  
せ、インドネシア民衆の政治參與  
まで實現させようといふあのおほ  
らかな大東亞宣言に、敵のうけた  
打撃は察するに餘りある。開戦以  
來僅かに一年有半、大東亞共榮國  
建設の堂々たる足並に敵の悲鳴さ  
へ聞えるではないか

日本を盟主として急速に進む南  
方の建設、この一連の寫眞を先  
づ敵に見せてやりたい。そして東  
亞の新しい歴史を十分納得させ  
てやりたい

だが、この必勝態勢を切崩さう  
と、物質力を誇る敵が手段をつく  
して執拗な反攻を繰返すことも必  
然である。先づ勝たねばならぬ。  
武力戦の完勝によつて、東亞の態  
勢が如何なる手段を以てしても絶  
對不壊であることを悟らせるの  
だ。今こそ一億總蹶起、直接戦力  
の増強に挺身あるのみ秋である

↑ 『どうだいアマン君、新しく海に  
飛出す抱負は』

『はい、訓練はなか／＼苦しかつ  
たですが、かうして一人前の船員に  
していただきたいことを本當に有難い  
と思つてゐます。勝つためには船と  
船乗りが必要です。きつとお役に立  
ちます』 昭南の現地船員養成所  
第一回卒業式から



# ペナン錫精錬所

南方はいよいよ明るく逞しく



人並みで歩けるやいなな煙洞。この中を特製炭から出た煙燻が流れる。竹筒は、冷却器と特殊な工作で多量の酸化錫が得られる装置である。

マライの錫とコムは、いづれも世界の豪勢である。占領後間もなく、生産過剰の問題などをまことしやかに口にする人もあつたが「多きを愛へず」で、どん／＼内地に輸送され戦力化されてゐる。

殊に錫はペナン島に、これもまた世界一の錫精錬所があり、豊富な原錫をどん／＼製品にしてゐる。精錬所は〇〇万トンの精錬能力を有してをり、その約半数はイギリス本國に送られてゐたといはれる。マライの喪失がイギリスにとつて如何に痛手であるかこの方面からも十分皆かれよう。

コ 晝夜を分らず燃え続けてゐる反射爐

穴に詰つた原錫と輝く製品錫の山。イギリス人に見せたらさぞかし口惜しがるだらう。

戦争の際、イギリス兵やイギリス人技師によつて破壊された箇所も今では完全に復舊がなり、精錬所は今その一杯の能力を發揮してゐる。對岸マライの街からペナン島を望むと、島の中央に聳立してゐる數本の煙突からは烏を散ふやうに濃い煙が吐き続けられてゐる。その下には原住民でも苦勞にしてゐる焙煉爐が自然の錫を満々と流へてゐるわけで、精錬された錫は、後から／＼貨車で港に運ばれてゆく。いま錫の街ペナンは、戦前にも増して明るく賑打つてゐる。

高塔で送られる重油は青白い焰と凄まじい音で錫に流む



焙煉のやうな煉爐。含有量七十五パーセント以上といはれる



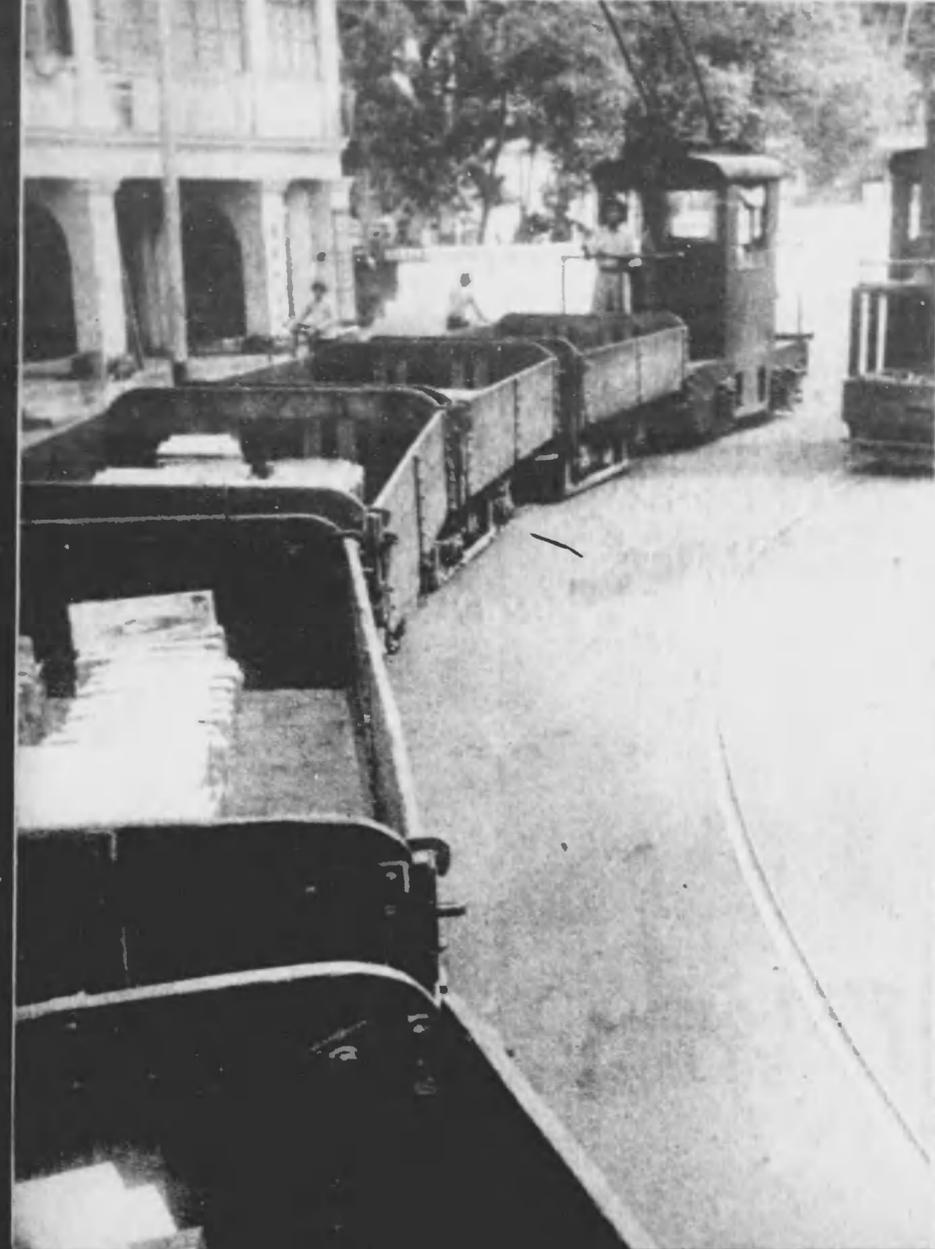
上下層の攪拌作業が行はれる



焙煉して内地へ送り込まれてくる

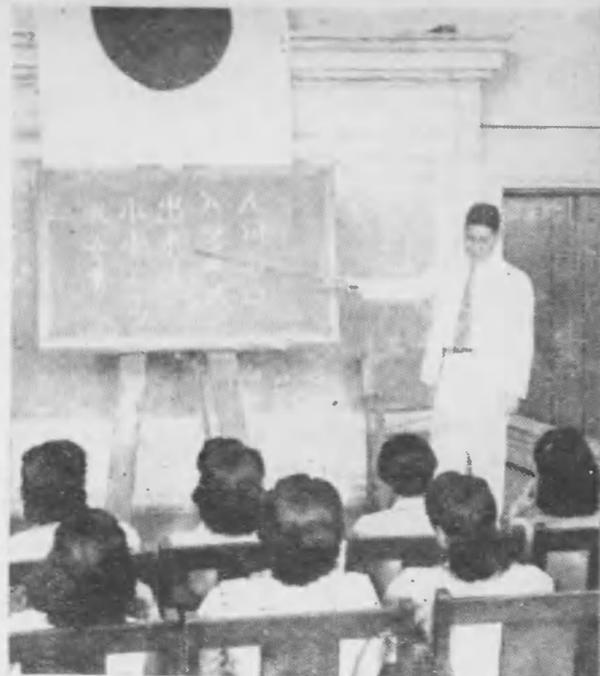


焙けた錫は鑄型に流し込まれ、冷却後、精製製品検査を経て倉庫に入る





↑ 警察官の仕事を  
訓練する  
警察官の  
訓練所



↑ 東洋精神を知  
るには、日  
本語を学ばね  
ば、女警  
官の日本  
語を学ばね  
ば、

↑ 通車や電車  
が通るマ  
ニラ市目貫  
の交通整理

↑ 不逞分子の手  
を止めた不  
逞女子がマ  
ニラ市に出入  
して大變  
な女警官の  
仲間になり  
た女子の奮  
闘を



## 場登官警女にラニマ

くし遅くる明よいよは方南

東條内閣総理大臣の議會聲明に應へて年内に獨立しようと意氣どむ比島は、ベルガス長官を陣頭に、獨立に對する絶対な條件である治安の全面的な確保、東洋的精神及び文化への還元、自給經濟の確立といふ三點にあらゆる努力を傾倒してゐる。

一時『悪い』といはれた比島の治安状況も、東條聲明や中央治安委員會の活躍によつて最近では、敗殘兵や匪賊の投降の數が目立つて多くなつてきたことや、長い閉治安の不良だつた地區の好轉ぶりなど、全島の治安状況は次第に確立されてきた。

この治安の好轉とともに、ホニファシヨ内務長官代理の言にもある通り『比島民の生命財産を保護するためには、現在の比島警察隊員ではまだ十分とはいへないが、更に増員してこれをマニラ及び地方に配置し、保甲制度と連絡をとりつてゆくことが最良の方策である』と比島行政當局は警官の大増員をはかつてゐる。この現はれの一つとして、ここに紹介したやうに、マニラには女警官が頻々と登場、治安の維持に當つてゐる。

撮影 鈴木陸軍報道班員



↑ 手さげきも鮮かな女警官  
敬禮の動作もキビくと猛濶練が行はれる





くし遅くる明よいよは方南

放課後、花壇に草花を植え、自然の観察力を養ふ。

お口を、紙に開いて、日本の国歌のおいこ。

鉢巻もケリ、と神道の習を學び、精神を鍛へるインドネシアのヨイ子供。

椰子の庭を渡るスガ、朝風に、旗はスレ、とあがる。



# へタルカヤジんで宮二

宮次郎の像を建て、インドネシアの先生は、子供たちに、私たちが金次郎さんのやうに勇敢なヨイ子供にならなうと願った。



ジャワ全島には、このチハヤ学校のほかに、昨年の天長節から再開された国民学校はすでに一リ、千校に及んでをり、全島のヨイ子供たちは、日本語が早く上手になつて日本のお友達と手紙の交換をしたいと、日本に対する強い憧れをもつてゐます。

二宮金次郎が旗を背に南進、インドネシアのヨイ子供たちを指導する。こゝにチハヤルカの椰子の木に包ま

れたチハヤ学校では、インドネシアの子供たちが二宮さんと一緒に、蘭印政府時代の單制教育から開放され、日本の指導で伸びくと勉強し、毎日日本語や唱歌の練習をしてゐます。







食料の準備を待つ子供たち。この日は、食料の配給が行われ、子供たちは順番に配給品を受け取った。



「苦勞をきたした」配給の知らせに隣組員が組長の家へ走り、次ぎに受取つてゆく。和やかに、しかも悠然と配給品を受け取る生活がある。



# 配給と張頑と

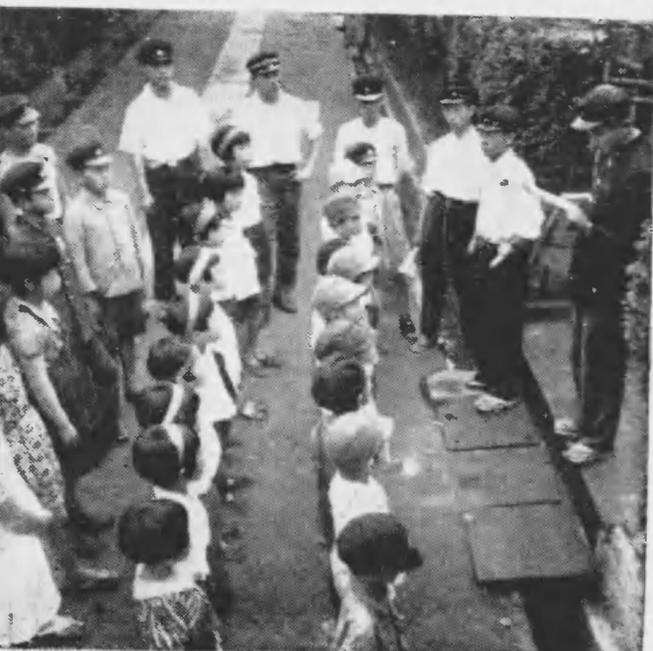
東京都杉並区南方町  
東町隣組

- 組長 五十三 藤田  
副組長 小山 藤田  
森 香造  
山本 敏子  
斎藤 武之助  
佐藤 武之助  
小島 武之助

「配給を法しし配給引を行はず、統制に服して生活する」これが配給の原則である。

「配給は、戦時体制の要として第一に確保すべきであり、配給品は、戦時体制の要として第一に確保すべきであり、配給品は、戦時体制の要として第一に確保すべきである。」

「配給品は、戦時体制の要として第一に確保すべきであり、配給品は、戦時体制の要として第一に確保すべきである。」



# 決戦衣服はこれだ

上段簡素化粧の雑型  
下段街に村に拾ふ實例



冠婚葬祭は平常着て訪問着を更生した乙型標準服の花嫁、乙種國民服の花婿



神前に懸掛して壁を垂れる女子工員 贈答服は針後の軍服のやうなものです。衣服は簡素でも、内にもる禮節は眞摯な態度に現はしませう



普段着即外出着だ、「ちよつくら役場へいつてくべえ」と、お百姓さんの決戦衣料體制は簡素そのものだ。茨城縣南相馬郡寺項村役場



戦ひだ、見立や恰好をぬきすてて農村は戦ふ衣服で身ごしらへだ。肩や膝にあてたぎの針々々に縫へこめられた決意の響き。寺原村、



色合ひや柄や恰好をいふべき時ではない。澤山あるお母さんの着物は娘さんと共同で着ませう。他人のなりふりを笑ふやうな惡習慣は絶対にやめませう



御寮はんも、いとはんも戦ふ生活にはこの恰好にかきると給場の問屋さんのお臺所も活氣横溢。大阪市東區平野町某商店



背廣服を更生した國民服乙種型柄物でも色物でも大いに結構



戦ふためとあらば、制服の定めある場合も特に支障なき限り正規外の服装大いに結構。お手製モンペの女車掌さん。大阪市電

新調しないこと、これが決戦下の衣生活で一番大切なことです

男は國民服、女は標準服、これがわれわれのこれからの生活の原則には違ひないのですが、繊維資材を戦力へ廻すためには、新調をやめて有るものを着れるだけ着ようといふことを、どこまでも實行しなければなりません。だが、何でも着ようといつたところで、實際には自づと限度があるわけですから、先ごろ決められた戦時衣生活簡素化實施要綱に従つて決められた大よその形をこゝに示してみませう

資材を生かすために思ひきつた練まで飛躍しませう。すでに都會に農村に實踐されてゐる幾多の好例と共に、皆さんの衣生活に明確な一線を劃することと思ひます

撮影上段 吉田 榮  
下段 藤本 忠男  
小石 清

型離の化粧簡段上 だれこは服衣戦決 例實ふ拾に村に街 段下

標準服甲型一部式服用型を着  
こんで頑爽と

ワイシャツのお古を婦人用に  
改造した長スボン。足首は補  
めた方がよろしい

かつてアツハツバと稱せられ  
た浴衣改造の簡單着。洗ひ  
さらし結構、ギリくのとこ  
ろまで着よう



⇒ 靴下無しに短スボン。  
夏季の最も簡單にした  
女子の衣服

社長の前へはこの恰好ちや出られんからな  
などといふのは平時のことです。社長さんも  
率先上衣なしでゆきませう



上つぱりが作れなければ、元帥袖の平常着に  
モンペでタイプも打ちませう



夏や暑い所では外出も勤務も  
これで結構。膝の切れたスポ  
ンや古ワイシャツの改造補修  
で遊び抜かう



⇒ 筒袖に膝までの短い裾着に、ズボンやモン  
ペをはいて外出着に、こんな工夫も大いに生  
かさう



街の舗道を激刺と戦ふ服装部隊が 大阪市堺筋



これこそ夏季執務の能率も増進されようといふもの。決戦衣裳は先  
づ官廳から率先垂範 大蔵省



男の和服にもこの工夫の用意あり、筒袖モンペの下をしぼつてゲ  
トルを巻けるやうにし、外出の際いつも風呂敷包に足袋や帽子やゲ  
トルなどを用意、直ちに防空作業に挺身しようといふ決戦型 大阪市



戦ひだ、前線に皮衣を結ぶ勇士に學ばう。つきだらけのズボン、短く  
なつた上衣を纏つて若人は風爽と戦ひにそなへる 東京清美中學校





# 懸賞募集

郵便貯金  
と  
我が家の生活設計



内容 自し十原野を先達するに国民の一人が戦時後援に即して生活設計を大として現在より以上の貯蓄をどこから生み出すか各種の郵便貯金制度をどう活用して行くかを再検討して一段と厚實に貯蓄を實踐しなければならぬその意味で実行性のあるものを御投稿下さい  
制限 本報には制限なきも必ず十紙大原紙紙使用のこと  
審査 貯金局、大政翼賛會賞金入選五篇、百圓  
賞金 入選五篇、百圓  
佳作 五篇、五十圓  
佳作 五篇、五十圓  
宛名 貯金局規畫課  
第一奨勵係  
締切 昭和十八年七月三十一日  
発表 昭和十八年九月一日新聞等にて發表の豫定  
その他 イイ住所氏名を明記すること  
ロ 懸賞作品に對する一切の権利は貯金局に於て取得す

二 百 七 十 億 貯 蓄 總 進 軍

## 便利な積立貯金

「もうこんなことと思ふ程知らず知らずの間に鹿白く貯金が殖へ、毎月郵便局からお知らせも、お勤先へても集金に備ふのて便利この上ない貯金で、百圓とか千圓とかいふ豫定額をさめて、毎月一定のお金を積立てるのです。

豫定額は、百圓、二百圓、三百圓の五種  
五百圓、千圓  
掛金は、一圓、二圓、三圓、五圓の七種  
十圓、二十圓、三十圓

積立期間は豫定額と掛金によつて最短二年から七年四ヶ月の間いろいろあります。  
新世帯積立貯金まづ始め。

## 有利な定額貯金

これはまた永く預けて置けば置くほど利の良くなる貯金で預入期間に依つて二分八厘六毛乃至四分強の利子が附きます。

名前の通り二十圓、五十圓、百圓、二百圓三百圓、五百圓と定つたお金を一度に貯金するもので、預入期間は十ヶ年以内ですが、一年たつと何時でも拂戻しが出来ます。  
定額の味がわかつて又預け。

## 貯金局

## 寫眞週報

(葉書數)

昭和十八年七月七日印刷發行

情報局

東京市本町一丁目

印刷局

内閣印刷局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

郵便局

東京市本町一丁目

内閣印刷局印刷發行

〔列強週報〕A4倍定額はさき大の書本